

表-5

発育段階別胃内容物の出現量

+++ 100% 出現
 ++ 50%以上 #
 + 30~50% #
 - 30%以下 #

	調査年月日	体長 (mm)	調査個体数	胃 内 容 物					
				空 胃	魚 類 (消化物)	海藻類	幼イカ	ヤムシ類	シヤコ類
当 才 魚	48年	95~100	2		+++				
	10月19日	100~110	3		+++	+			
		130~145	5		+++			+	
	49年	110~140	4	3	-				
	1月18日	110~140	14	2	++				
一 才 魚	48年	162~172	3		+++		+	++	
	6月15日	184~200	3	1	++				
	7月11日								

	調査年月日	体長 (g)	調査個体数	胃 内 容 物						
				空 胃	砂	貝 類	カニ類	魚 類	ウニ類	
成 魚	48年	56.0~67.5	2880~4760	8	2	+	++	+		
	4月2日	43.0~66.0	1240~4340	13	3		-	-	++	-
	6月22日	38.5~52.0	950~2290	12	3	-	-	-	++	++
	8月29日		560~3200	29	5	-	+	+	+	+
	49年	3月5日								

	調査年月日	胃 内 容 物								
		ナマコ類	ヒトデ類	ウミシダ類	反尾類	頭足類	ウミホタル類	等脚類	ホシムシ類	多毛類
魚	4月2日	-								
	6月22日									
	8月29日		-	+			-	-		
	49年	3月5日	-	-			-			

V 漁業生産

1) 総漁獲量及海域別漁獲量

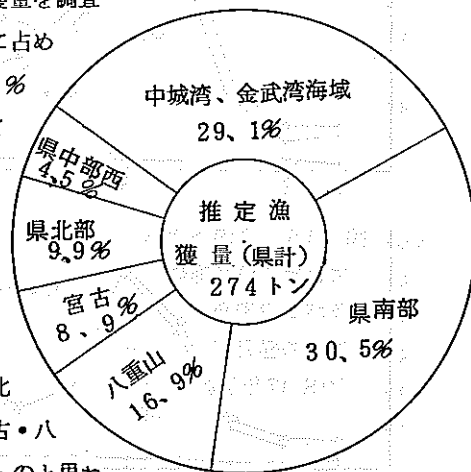
沖縄県に於ける漁獲統計資料は、50種以上のフェダイ科、フェフキダイ科を一括してタイ類として取り扱っているため、沖縄県全体のハマフェフキの漁獲量を知るのに基だ不都合である。昭和47年度のタイ類漁獲量からハマフェフキの漁獲量を推定すると274トンであった。

この推定に当っては、糸満、那覇地区、勝連の漁獲量を調査

し、その結果からハマフェフキ漁獲量のタイ類中に占める割合をみると糸満33%、那覇地区31%、勝連18%

であった。沖縄県全体のハマフェフキ漁獲量のタイ類中に占める割合を約25%と推定して算出した。

海域別にみると県南部30.5%で最も多く、次いで中城湾、金武湾海域で29.1%、八重山16.9%、県北部9.9%、宮古8.9%、県中部西側海域4.5%の順となっている。県南部は糸満、那覇を含むが、特に那覇の漁獲量には宮古・八重山、県北部海域からの集荷が主体をなすため、実際には宮古・八重山海域の漁獲量の占める割合はかなり高くなるものと思われる。



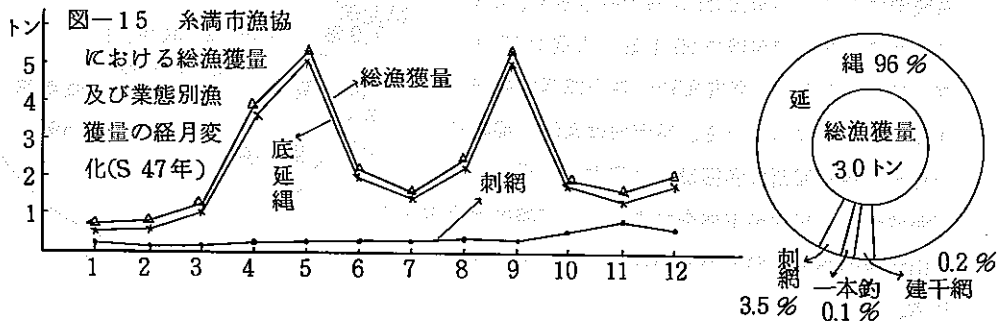
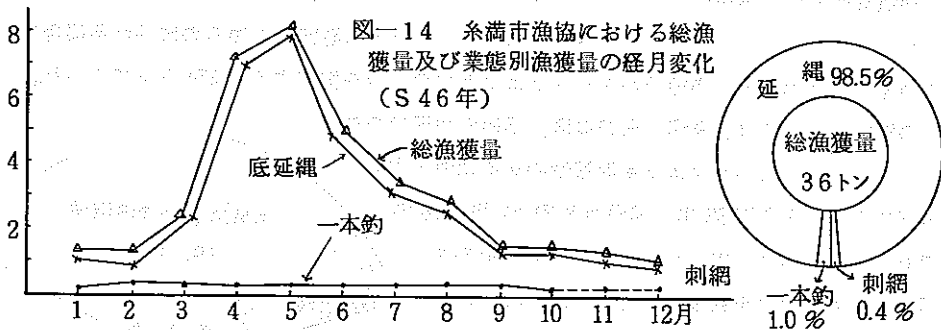
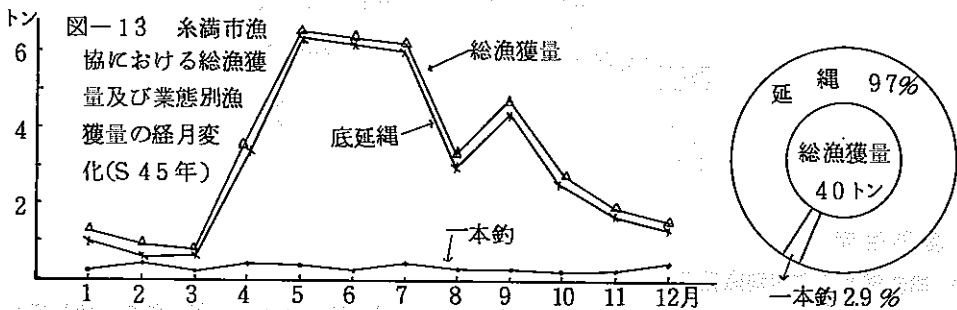
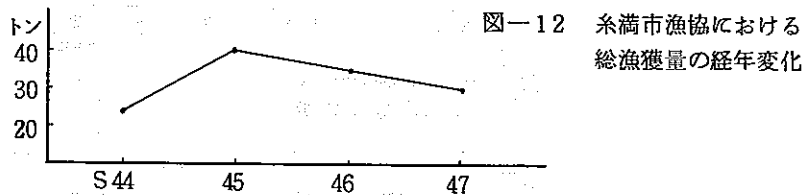
2) 漁協別漁獲量及び業態別漁獲量

現在セリの開設されている漁協は沖縄本島で7漁協（1漁協は今年から開始）宮古・八重山各1カ所の計9カ所である。その内、資料があり漁獲量の多い、糸満、那覇地区、勝連漁協の漁獲量及び業態別漁獲量について調査した。

① 糸満市漁協における漁獲量及び業態別漁獲量

昭和44～47年の総漁獲量は、図一12に示す通り、24.5～40トンの範囲にあって、昭和45年には最高を示し、その後、年々減少傾向がみられる。

昭和45～47年の業態別の漁獲量をみると延縄による漁獲量が96～98.5%を示し、その他1本釣刺網、建干網による漁獲割合が0.1～3.5%となっている。



② 勝連村漁協における漁獲量及業態別漁獲量、昭和47年度の総漁獲量は46年度に比べて4トンの減少がみられた。昭和47年度の総漁獲量は46年度に比べて4トンの減少がみられた。昭和46年度の業態別漁獲割合は底延縄81.9%、追込網9%、刺網8.5%、その他0.6%であった。月別変化をみると1～6月増加傾向、7月に減少、8月増加し最高を示した。その後は減少傾向を示す。昭和47年度は底延縄58.2%、刺網24.6%、追込網14.7%、建干網2.5%であった。月別にみると6月最高で7月～10月横這い状態、11月～12月減少傾向を示した。底延縄の月別変化は総漁獲量の傾向とはほぼ類する、追込網は5～6月に最高を示し、刺網は10月以降に増加傾向を示す。

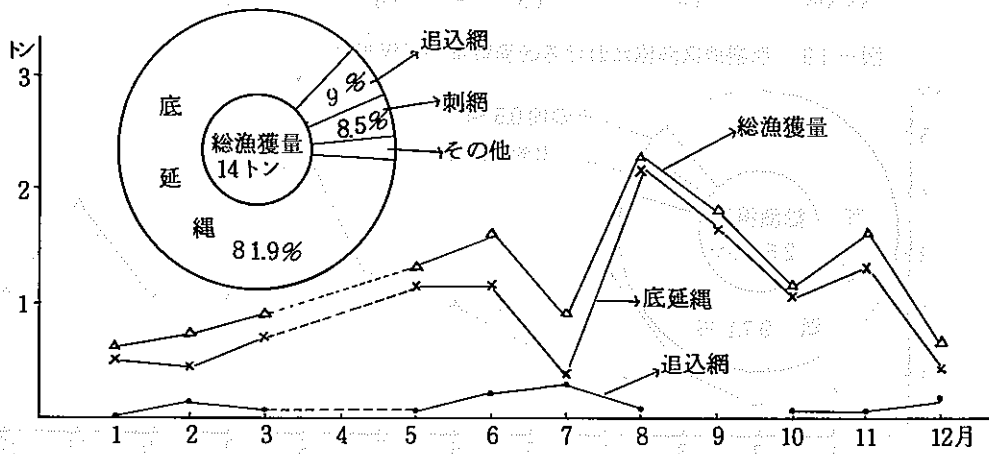
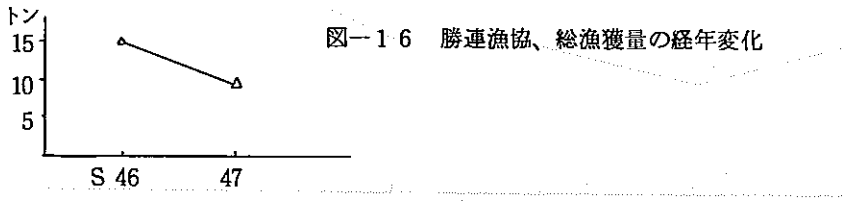


図-17 勝連漁協の総漁獲量及業態別漁獲量の経月変化 (S 46年)

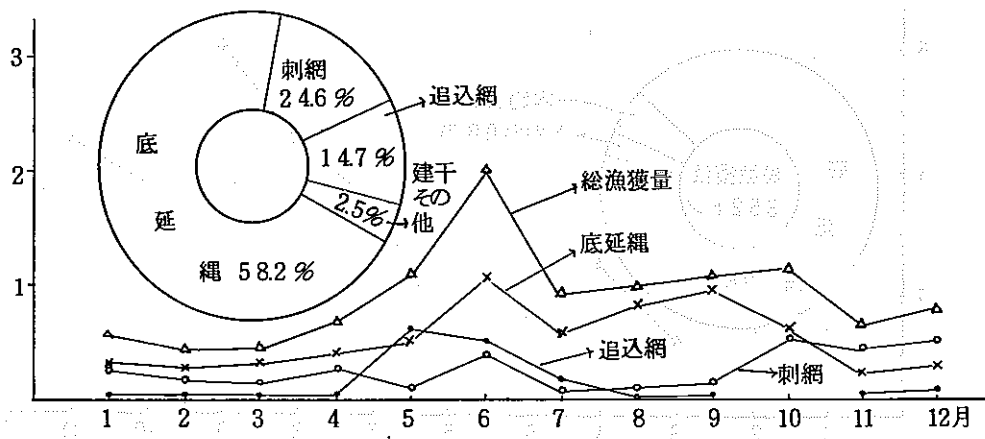


図-18 勝連漁協における総漁獲量及業態別漁獲量の経月変化 (S 47年)

③ 那覇地区漁協における漁獲量及び業態別漁獲量

昭和43年～46年の漁獲量は18.7トン～35.2トンで昭和44年から増加傾向を示し、昭和47年度は46年より10トンの漁獲増となっている。業態別にみると、97～98%を延縄漁業により漁獲している。その他、1本釣が2%前後となっている。経月変化をみると4月、8～9月、11月に漁獲増となっている。

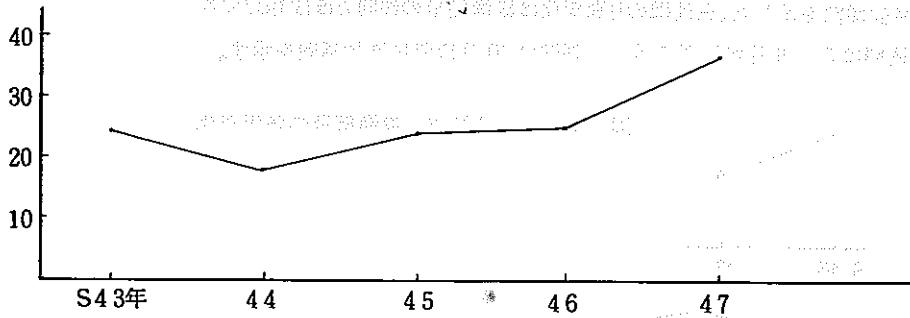


図-19 那覇地区漁協における総漁獲量の経年変化

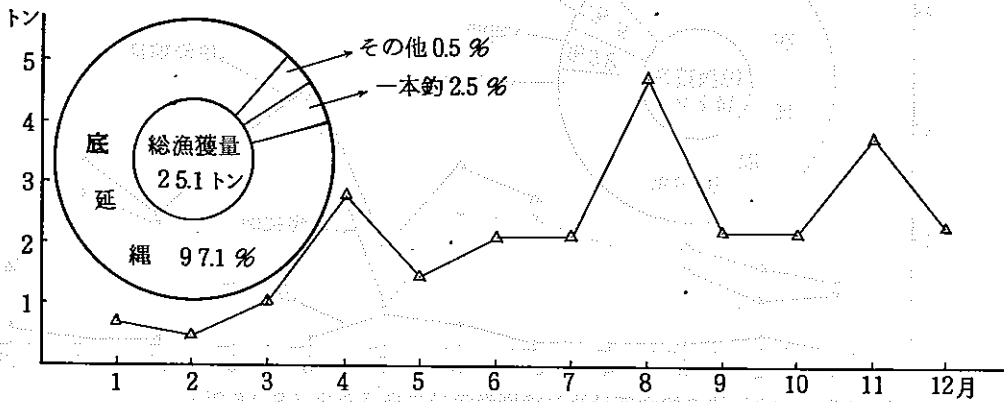


図-20 那覇地区漁協に於ける総漁獲量及業態別漁獲量の経月変化 (S.46年)

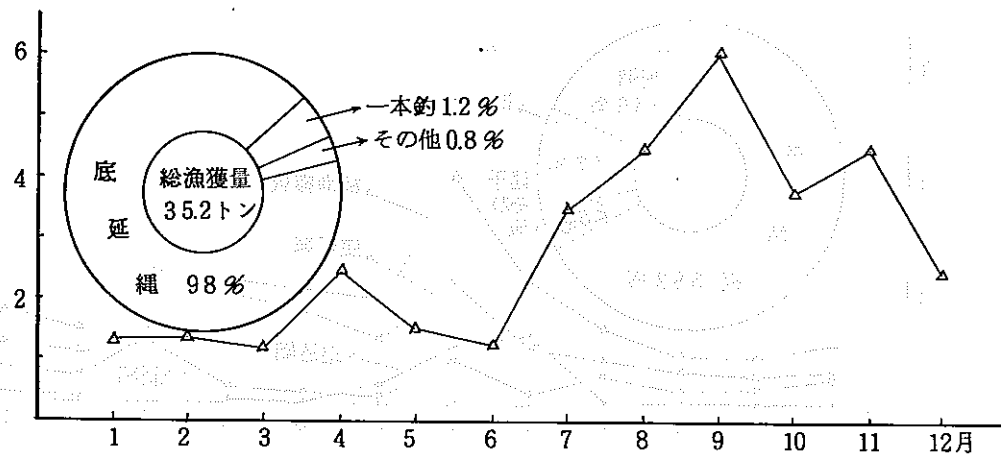


図-21 那覇地区漁協に於ける総漁獲量及び業態別漁獲量の経月変化 (S.47年)